

迫力満点阿波踊りと自衛隊をアピール



自衛隊神奈川地方協力本部川崎地区隊（地区隊長 宮城英明2等陸尉）は、令和5年10月14日（土）に川崎駅東口周辺で行われた「第38回かわさき阿波踊り」に、海上自衛隊厚木基地に所属している『ちどり連』と一緒に川崎駅前商店街（銀柳街）を練り歩き、踊りを盛大に盛り上げた。

かわさき阿波踊りは、1986年から始まっている歴史ある阿波踊りで、今年は5年ぶりの商店街での開催となり、1連（地元・招待連）約470名が力強く息の合った演舞を披露した。

ちどり連の躍動感あふれる男踊り、優美な女踊り、そして気持ち高ぶる鳴り物の音色とカッコよく圧巻の演舞は、かわさき阿波踊りの中でも一段と目を引き、会場のボルテージが最高潮にあがっていた。

川崎地区隊の隊員も、ちどり連の法被を着て、厚木基地に所属するP-1哨戒機の模型を乗せたリアカーを引き、連の後ろから自衛官募集をアピールした。

来場者の中には、自衛隊に阿波踊り連があることに驚く方もいて、自衛隊を広く知ってもらえるいい機会となった。

川崎地区隊長は

「川崎阿波踊りに参加して、自衛隊を身近に感じてもらい、地元に着した地区隊になれるよう力を注いでいきたい」としている。

